

Main table with 4 columns: 4 外壁改修工事 (Exterior Wall Renovation), 4-1 外壁改修工事 (Exterior Wall Renovation), 4-2 外壁改修工事 (Exterior Wall Renovation), 4-3 外壁改修工事 (Exterior Wall Renovation). Each column contains detailed technical specifications, material lists, and construction methods for various wall types and repair techniques.

Summary table with 4 columns: 年度 (Year), 設計年月 (Design Year), 工事名 (Project Name), and 図面名称 (Drawing Name). Includes fields for '改修特記仕様書 (その2)' and '縮尺' (Scale).

6 内装改修工事
2 既存床の撤去並びに下地補修
3 既存壁の撤去並びに下地補修
4 木下地等の表面仕上げ
5 製材
6 造作用集材
7 造作用単板積層材
8 床張り用合板等
9 接着剤
10 防菌・防蟻処理

11 床板張り
12 軽量鉄骨天井下地
13 軽量鉄骨壁下地
14 ビニル床シート張り
15 ビニル床タイル張り
16 視覚障害者用床タイル
17 ビニル幅木
18 合成樹脂塗床
19 フローリング張り
20 畳敷き
21 ポリスチレンフォーム床下地材
22 カーペット敷き

23 セッコウボードその他のボード張り
24 吸音材
25 壁紙張り
26 モルタル塗り材料
27 タイル張り
28 断熱材
29 浴室天井材
30 フリーアクセスフロア

31 可動間仕切
32 移動間仕切
33 トイレブース
34 階段滑止め
35 階段手すり
36 黒板及びホワイトボード
37 表示
38 ブラインド
39 ロールスクリーン
40 カーテン
41 カーテンレール
42 ブラインドボックス及びカーテンボックス
43 天井点検口
44 床点検口
45 網製書架及び物品棚
46 くつふきマット
47 流し台ユニット

6 内装改修工事
48 屋内掲示板
49 洗面カウンター
50 収納家具
51 防煙垂れ壁
7 塗装改修工事
1 材料
2 下地調整
3 錆止め塗料塗
4 合成樹脂調合ペイント塗り
5 フタル酸樹脂エナメル塗り
6 耐候性塗料塗り(DP)
7 つや有成樹脂エマルジョンペイント塗り
8 合成樹脂エマルジョンペイント塗り
9 木材保護塗料塗り
8-1 耐震改修工事
2 溶接金剛
3 鉄筋の継手・定着
4 鉄筋及び溶接金剛の最小かぶり厚さ
5 各部の配筋

6 ガス圧接
7 コンクリートの種類及び強度
8 コンクリートの品質
9 普通コンクリート
10 モルタル及びグラウト材
無収縮モルタル
コンシステンシー
ブリージング
無収縮性
圧縮強度
付着強度
塩化物量
試験方法
無収縮モルタルの品質及び試験方法
コンシステンシー
ブリージング
無収縮性
圧縮強度
付着強度
塩化物量
試験方法
無収縮モルタルの品質及び試験方法
コンシステンシー
ブリージング
無収縮性
圧縮強度
付着強度
塩化物量
試験方法

13 鉄骨製作工場
14 施工管理技術者
15 鋼材
16 スカラップ
17 高力ボルト
18 鉄骨工作仮組
19 溶接部
20 錆止め塗料
21 耐火被覆材
22 既存コンクリート面の目視し
23 あと施工アンカーの材料
24 あと施工アンカーの穿孔・固着作業
25 施工確認試験
26 断熱材兼用型枠
27 溶融亜鉛めっき工法
8-2 耐震改修工事
1 打増し壁に用いるシアコネクタ
2 増設・補強工事の打込み
3 柱補強
4 連続繊維シート巻き
1 打増し壁に用いるシアコネクタ
2 増設・補強工事の打込み
3 柱補強
4 連続繊維シート巻き

5 スリットの施工
9 環境配慮(グリーン)改修工事
1 アスベスト含有調査
2 吹付けアスベストの処理
3 アスベスト成形材の処理等
4 アスベスト処理における官公署等への手続
5 外断熱改修工事
6 ガラス改修工事
7 屋上緑化改修工事
8 透水性アスファルト舗装改修工事

建築改修工事仕様書 [大分県版]

1 一般事項

1 適用範囲 この仕様書は、公共建築改修工事標準仕様書、建築改修工事監理指針、改修特記仕様書を補足するものとする。

2 一般共通事項

- (1) 工事は、請負者の責任管理により実施し、品質管理及び安全管理のほか、関連工事との調整、建物管理者への連絡等、工事全体への協力を図ると共に、建物の運営をできるだけ妨げることのないようにする。
- (2) 工事の計画及び施工にあたって、施工前日に工事管理区分を監督職員及び建物管理者と事前に十分打ち合わせの上、工事に伴う事故防止や環境保全に留意し管理に必要な事項を明確にする。
- (3) 施工に先立ち現場の状況を十分調査し確認を行う。確認の結果、改修方法等が現場の状況にそぐわない場合は、改修方法を検討し監督職員と協議する。
- (4) 施工では確認できないか、または確認が困難なものについては、あらかじめ確認、記録の方法等を定め監督職員と協議する。
- (5) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
- (6) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。
- ◎印の付かない場合は、印の付いたものを適用する。
- ◎印と○印の付いた場合は、共に適用する。

2 外部改修工事

1 下地処理

・ A - 1. 屋根、床、根廻り等 (高圧水洗工法)

工程 1. 水洗い・清掃 (高圧水洗 12MPa, 12ℓ/min)
 ・ 扇形ノズルの場合、ノズル先端と壁との間隔は20cm以内、噴射時間は1.0ml/分以下とする

・ A - 2. 外壁、軒裏等 (高圧水洗工法)

工程 1. 水洗い・清掃 (高圧水洗 20MPa, 18ℓ/min)
 ・ ノズル先端と壁との間隔は20cm以内、噴射時間は1.5ml/分以下とし、ノズルはトルネード型を使用する

2. 引張試験 (JIS A 6916) 各面2ヶ所を原則とする

・ A - 3. 外壁、軒裏等 (サンダー工法)

工程 1. 劣化膜の除去 (サンダーケレン等)
 2. 水洗い・清掃 (高圧水洗 12MPa, 12ℓ/min) 作業方法は上記A-1参照
 3. 引張試験 (JIS A 6916) 各面2ヶ所を原則とする

・ A - 4. 外壁等 (塗膜はく離工法: 軟化剤工法)

工程 1. はく離剤塗布 (0.5kg/m²以上、24h以上放置)
 2. 劣化膜の除去 (ケレン金ペラorサンダーケレン)
 3. 水洗い・清掃 (高圧水洗 12MPa, 12ℓ/min) 作業方法は上記A-1参照
 4. 引張試験 (JIS A 6916) 各面2ヶ所を原則とする

・ A - 5. 内部床等: 張物下地調整 (サンダーケレン)

工程 (Pタイルor長尺塩ビシート撤去後)
 1. サンダーケレン (投着剤まで撤去の上、平坦になるまで行う)
 2. 清掃 (掃除機)

・ A - 6. 内部壁等: モルタル・タイル撤去清掃

工程 (モルタルorタイル撤去後)
 1. 清掃 (ブローorほうき)

・ A - 7. 内外部壁・天井等: 旧塗膜仕上げ剥離等 (リシン面等) (ケレン金ペラ)

工程 1. ケレン金ペラ (リシン面等)
 2. 清掃 (ブローorほうき)
 3. 外壁のみ、引張試験 (JIS A 6916) 各面2ヶ所を原則とする

・ A - 8. 外部床、立上り等: 防水下地処理

工程 (補修後) (床) (立上り)
 1. 目地処理 1. ポリマーセメントペースト塗 1.5kg/m²以上 (>0.9程度)
 2. ポリマーセメントペースト塗 1.5kg/m²以上 (>0.9程度)

2 下地調整 (仕上塗材仕上げ)

1 適用範囲 外部補修後の塗装の塗り替え工事に適用する。

2 材料 下地調整材は、JIS A 6916 の規格品とする。

種類	呼び名	塗厚 (mm)	施工方法
・セメント系下地調整材	1種 下地調整塗材 C-1	0.5~1.0	はけ塗り・吹付・こて塗り
	2種 下地調整塗材 C-2	1.0~3.0	こて塗り
・合成樹脂エマルジョン系下地調整材	下地調整塗材 E	0.5~1.0	吹付

仕上塗材 [4.2.2] は下記により、主材は、JIS A 6909 による防水形に適合する規格品とする。
 防水形複層塗材 E ・防水形外装塗材 E ・可とう形改修塗材 E

3 工法 (1) 旧塗膜と新規塗膜との整合性、下地モルタルの強度等について監督職員と協議を行う。
 (2) 下地処理を行い、仕上げに支障のない下地を確保する。この時、引張試験を行う。
 (3) 下地調整材を施工する。下地調整材は仕上げに支障のないものとする。
 (4) 仕上塗材は [4.2.2] による。
 コンクリート打直し面の下地調整塗材は、上記下地調整材 C-2 のコテ塗り (2mm) とする。

4 確認 表面の接着強度引張試験 (JIS A 6909, 6916) は下記による。コンクリート打直し面には適用しない。
 () 試験方法は、接着力試験機による引張強度の測定による。
 () 試験体試験は各面2箇所、計8箇所で行い、試験体の位置は監督職員の指示による。
 () 結果の判定は、引張強度が0.7N/mm² (上記防水形塗材 E の場合) 以上の場合を合格とする。不合格の場合、再度下地処理を行い不良箇所について再試験を行う。

3 各部の改修方法

・ C はコンクリート面の改修方法を指示したものです。
 ・ M はモルタル面の改修方法を指示したものです。
 ・ T はタイル面の改修方法を指示したものです。

・ C - 1. ひび割れ部改修 (自動式低圧エポキシ樹脂注入工法)

工程
 ・ 貫通クラックでない場合
 1. 汚れを除去・エアークリーニング (ひび割れに沿って幅50mm程度)
 2. 樹脂注入器具取付 (ひび割れ部の中心で、200mm~300mm間隔)
 3. ひび割れ部をシール (幅30mm、厚さ2mm程度)
 4. エポキシ樹脂注入 (低圧注入: 0.4N/mm²以下)
 5. 仕上げ清掃
 ・ 貫通クラックの場合
 1. 樹脂注入の反対側 上記1工法
 2. 樹脂注入の反対側 上記3工法
 3. 樹脂注入側 上記1工法
 4. 樹脂注入器具取付 上記2工法
 5. ひび割れ部をシール 上記3工法
 6. エポキシ樹脂注入 上記4工法
 7. 仕上げ清掃

・ T - 1. ひび割れ部改修 (自動式低圧エポキシ樹脂注入工法)

工程
 1. ひび割れ部をシール
 2. エポキシ樹脂注入
 3. ひび割れ部をシール
 4. エポキシ樹脂注入
 5. ひび割れ部をシール
 6. エポキシ樹脂注入
 7. 仕上げ清掃

・ C - 2. ひび割れ部改修 (Uカット・シーリング材充填工法: 可とう性エポキシ樹脂充填工法)

工程
 1. Uカット (カッター入れ)
 2. エアークリーニング
 3. プライマー塗布
 4. 可とう性エポキシ樹脂充填工法
 5. (行方処理) (ポリマーセメントモルタル)

・ M - 2. ひび割れ部改修 (Uカット・シーリング材充填工法: 可とう性エポキシ樹脂充填工法)

工程
 1. Uカット (カッター入れ)
 2. エアークリーニング
 3. プライマー塗布
 4. 可とう性エポキシ樹脂充填工法
 5. (行方処理) (ポリマーセメントモルタル)

・ C - 3. ひび割れ部改修 (シーリング工法同等)

工程
 1. 機械式弾性エポキシ樹脂注入工法
 2. 手動式弾性エポキシ樹脂注入工法 (内部)

・ M - 3. ひび割れ部改修 (シーリング工法同等)

工程
 1. 機械式弾性エポキシ樹脂注入工法
 2. 手動式弾性エポキシ樹脂注入工法 (内部)

・ T - 3. ひび割れ部改修 (シーリング工法同等)

工程
 1. 機械式弾性エポキシ樹脂注入工法
 2. 手動式弾性エポキシ樹脂注入工法 (内部)

・ C - 4. ひび割れ部改修 (ペランダ塗防水下地: Uカット・シーリング材充填工法)

工程
 1. Uカット (カッター入れ)
 2. エアークリーニング
 3. プライマー塗布
 4. ウレタンシーリング材充填 (仕上げに使用する場合は: ポリマーセメントペースト塗が必要)

・ M - 4. ひび割れ部改修 (ペランダ塗防水下地: Uカット・シーリング材充填工法)

工程
 1. Uカット (カッター入れ)
 2. エアークリーニング
 3. プライマー塗布
 4. ウレタンシーリング材充填 (仕上げに使用する場合は: ポリマーセメントペースト塗が必要)

・ C - 5. 欠損部改修 (露筋欠損部: 平面部)

工程
 1. 錆鉄筋ハツリ出し
 2. 鉄筋錆落とし
 3. エアークリーニング
 4. 鉄筋錆処理剤塗
 5. プライマー塗布
 6. ポリマーセメントモルタル塗 (7mm/回塗)

・ M - 5. 欠損部改修 (露筋欠損部: 平面部)

工程
 1. 錆鉄筋ハツリ出し
 2. 鉄筋錆落とし
 3. エアークリーニング
 4. 鉄筋錆処理剤塗
 5. プライマー塗布
 6. ポリマーセメントモルタル塗 (7mm/回塗)

・ T - 5. 欠損部改修 (露筋欠損部: 平面部)

工程
 1. 錆鉄筋ハツリ出し
 2. 鉄筋錆落とし
 3. エアークリーニング
 4. 鉄筋錆処理剤塗
 5. プライマー塗布
 6. ポリマーセメントモルタル塗 (7mm/回塗)
 7. タイル張

・ C - 6. 欠損部改修 (露筋欠損部: 角部)

工程
 1. 錆鉄筋ハツリ出し
 2. 鉄筋錆落とし
 3. エアークリーニング
 4. 鉄筋錆処理剤塗
 5. プライマー塗布
 6. ポリマーセメントモルタル塗 (7mm/回塗)

・ M - 6. 欠損部改修 (露筋欠損部: 角部)

工程
 1. 錆鉄筋ハツリ出し
 2. 鉄筋錆落とし
 3. エアークリーニング
 4. 鉄筋錆処理剤塗
 5. プライマー塗布
 6. ポリマーセメントモルタル塗 (7mm/回塗)

・ T - 6. 欠損部改修 (露筋欠損部: 角部)

工程
 1. 錆鉄筋ハツリ出し
 2. 鉄筋錆落とし
 3. エアークリーニング
 4. 鉄筋錆処理剤塗
 5. プライマー塗布
 6. ポリマーセメントモルタル塗 (7mm/回塗)
 7. タイル張

・ C - 7. 欠損部改修 (露筋部: セパレーター等)

工程
 1. セパレーター等ハツリ出し、切断
 2. エアークリーニング
 3. プライマー塗布
 4. エポキシ樹脂モルタル塗 (7mm/回塗)

・ M - 7. 欠損部改修 (露筋部: セパレーター等)

工程
 1. セパレーター等ハツリ出し、切断
 2. エアークリーニング
 3. プライマー塗布
 4. エポキシ樹脂モルタル塗 (7mm/回塗)

・ C - 8. 欠損部改修 (平面部: 深さ50程度)

工程
 1. 脆弱部除去
 2. エアークリーニング
 3. プライマー塗布
 4. エポキシ樹脂モルタル塗 (7mm/回塗)

・ M - 8. 欠損部改修 (平面部: 深さ50程度)

工程
 1. 脆弱部除去
 2. エアークリーニング
 3. プライマー塗布
 4. エポキシ樹脂モルタル塗 (7mm/回塗)

・ C - 9. 欠損部改修 (平面部)

工程
 1. 脆弱部除去
 2. エアークリーニング
 3. プライマー塗布
 4. エポキシ樹脂モルタル塗 (7mm/回塗)

・ M - 9. 欠損部改修 (平面部)

工程
 1. 脆弱部除去
 2. エアークリーニング
 3. プライマー塗布
 4. エポキシ樹脂モルタル塗 (7mm/回塗)

・ C - 10. 欠損部改修 (角部)

工程
 1. 脆弱部除去
 2. エアークリーニング
 3. プライマー塗布
 4. エポキシ樹脂モルタル塗 (7mm/回塗)

・ M - 10. 欠損部改修 (角部)

工程
 1. 脆弱部除去
 2. エアークリーニング
 3. プライマー塗布
 4. エポキシ樹脂モルタル塗 (7mm/回塗)

・ T - 10. 欠損部改修 (角部)

工程
 1. 脆弱部除去
 2. エアークリーニング
 3. プライマー塗布
 4. エポキシ樹脂モルタル塗 (7mm/回塗)
 5. エポキシ樹脂モルタル塗 (強度を必要とする場合に使用) (但し相関強度に注意)
 6. タイル張

・ M - 11. 浮き部改修 (モルタル塗替え工法: 平面部)

工程
 1. カッター入れ
 2. モルタル撤去
 3. エアークリーニング
 4. プライマー塗布
 5. ポリマーセメントモルタル塗 (7mm/回塗)

・ T - 11. 浮き部改修 (タイル・モルタル塗替え工法: 平面部)

工程
 1. カッター入れ
 2. モルタル撤去
 3. エアークリーニング
 4. プライマー塗布
 5. タイル張
 6. エポキシ樹脂モルタル塗 (強度を必要とする場合に使用) (但し相関強度に注意)

・ M - 12. 浮き部改修 (軒・軒天: 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法)

工程
 1. 穿孔、ブラシ・エアークリーニング
 2. アンカーピン (ステンレス) @ 9, 1.6本/m²取付
 3. エポキシ樹脂注入
 ・ 25cc/本以上、かつ直径18cm以上 (仕上げに使用する場合は: セメント系プライマーが必要)

・ T - 12. 浮き部改修 (壁: 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法)

工程
 1. 穿孔、ブラシ・エアークリーニング
 2. アンカーピン (ステンレス) @ 8本/m²取付
 3. エポキシ樹脂注入
 ・ 25cc/本以上、かつ直径18cm以上 (仕上げに使用する場合は: ポリマーセメントペースト塗が必要)

・ M - 13. 浮き部改修 (床: アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法)

工程
 1. 穿孔、ブラシ・エアークリーニング
 2. アンカーピン (ステンレス全ネジピン) @ 2.0取付
 3. エポキシ樹脂注入
 ・ 25cc/本以上、かつ直径18cm以上 (仕上げに使用する場合は: ポリマーセメントペースト塗が必要)

・ M - 14. 浮き部改修 (笠木: アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法)

工程
 1. 穿孔、ブラシ・エアークリーニング
 2. アンカーピン (ステンレス全ネジピン) @ 2.0取付
 3. エポキシ樹脂注入
 ・ 25cc/本以上、かつ直径18cm以上 (仕上げに使用する場合は: ポリマーセメントペースト塗が必要)

・ M - 15. 浮き部改修 (ピンネット工法)

工程
 1. 高圧水洗 (12MPa or 20MPa)
 2. 穿孔
 3. 特殊ピン (ステンレス: SUS304) をエポキシ樹脂で固定
 4. ポリマーセメント塗
 5. 繊維製メッシュを塗り込む
 6. ポリマーセメント塗 (工等の詳細は、採用したメーカー仕様によるものとする)

・ T - 15. 浮き部改修 (ピンネット工法)

工程
 1. 高圧水洗 (12MPa or 20MPa)
 2. 穿孔
 3. 特殊ピン (ステンレス: SUS304) をエポキシ樹脂で固定
 4. ポリマーセメント塗
 5. 繊維製メッシュを塗り込む
 6. ポリマーセメント塗 (工等の詳細は、採用したメーカー仕様によるものとする)

・ M - 16. 浮き部改修 (軒・軒天: 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法)

工程
 1. 穿孔、ブラシ・エアークリーニング
 2. アンカーピン (ステンレス) @ 2.0取付
 3. エポキシ樹脂注入
 ・ 25cc/本以上、かつ直径18cm以上 (仕上げに使用する場合は: セメント系プライマーが必要)

・ T - 16. 浮き部改修 (壁: 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法)

工程
 1. 穿孔、ブラシ・エアークリーニング
 2. アンカーピン (ステンレス) @ 2.0取付
 3. エポキシ樹脂注入
 ・ 25cc/本以上、かつ直径18cm以上 (仕上げに使用する場合は: セメント系プライマーが必要)

撤去・復旧標準図
 注1：標準の寸法を示すもので、現況を考慮して決定のこと。
 注2：既存壁が耐震壁の場合は、はつりを行わない。

